

名古屋港水族館館長 内田 至 様
名古屋港管理組合管理者および
名古屋市長 松原 武久 様
愛知県知事 神田 真秋 様

freeOrca



名古屋港水族館にシャチやイルカを入れないでください

私たちは、イルカ・クジラを始めとした野生生物保護を願う市民です。

この度、予算不足でストップしていた名古屋港水族館の新館建設に21億の年度予算がつきました。また、この建設に関しては、2001年までに、総額200億円という大金が費やされ、新館には、シャチ、バンドウイルカ、シロイルカ（ベルーガ）が入られる予定とのことです。しかし、私たちは、次のような点からこの計画が適切でないと考え、計画の変更をお願いします。

- 1) 野生のイルカ・クジラの生態研究が進んだ結果、シャチやイルカなど広い大海を群れで回遊するような動物の生態は、水族館での飼育とかけ離れていることが分かってきました。その結果、欧米ではイルカやクジラの人工的な飼育に反対する考え方が広まり、イルカやクジラを飼わない水族館が増えつつあります。今回の計画は、このような時代の動きに逆行するものです。
- 2) 1997年の太地のシャチ捕獲事件は、国内外の大きな批判を浴び、日本沿岸でのシャチの捕獲は当分行われない可能性が高くなりました。4～6頭ものシャチを海外から購入するとすれば、輸送費なども含めて総額でおよそ10億円以上の大金がかかります。飼育下でのシャチの寿命は平均で5～6年といわれますが、飼育に経験のない名古屋港水族館で、果して何年シャチたちが生き延びられるでしょうか。このような計画に、多額の税金を使うことは問題です。
- 3) 水族館は「教育的施設」といわれています。しかし、シャチやイルカを本来の住処である海から切り離して展示することは、本当の意味での教育とはいえません。また、家族で暮らす動物を、無理やり捕まえて人間の娯楽のために使うのは、弱い立場のものに対しては力づくで何をしても構わないという非教育的なことです。
- 4) 水族館の今日的な役割は、できるだけ本来の自然を人々に伝えることです。藤前干潟の保護などを通じた伊勢湾の生態系の保全やその調査、座礁したイルカやクジラの保護とリリースなど、市民の望む水族館のあり方から可能なことは他にあります。また、このような先験的な方法は、世界にも名高い内田館長でこそできることです。そうした地球環境を考え、未来に受け継ぐことのできるプロジェクトでこそ、市民の税金は生きることができると思います。

こうした理由から、私たちはシャチ、イルカの購入、飼育に反対し、新しい水族館作りを要望します。

氏名	年齢	住所
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____